

19世紀中頃の英国のデザイン - Journal of Design and Manufactures と
The Crystal Palace Exhibition Illustrated Catalogue(1851)を事例として-

○ 野澤久美子* 小沢直子** 伊藤紀之**

(*共立女子大・院 **共立女子大)

【目的】

近代デザイン運動において重要な役割を果たした19世紀中頃のイギリスのデザインの状況を把握することを目的とする。

【方法】

1849年から1852年にかけて刊行された世界初のデザイン誌と言われている Journal of Design and Manufactures (以下デザイン・ジャーナル誌) と1851年ロンドン万国博覧会のカタログを資料に、解説及び両誌に掲載されている製品の図版を品目別、材料別などに分類し当時のデザインの概念を考察する。

【結果】

- ①デザイン・ジャーナル誌では当時のデザインの意味として実用性と装飾性をあげている。デザインをどのように使っていたかをみると、design とともに execute が併記されて使われている。当時の英国ではデザインという言葉には execute が意味する「実行の過程、プロセス」は含まれていなかったことを示している。またデザイン・ジャーナル誌はロンドン万博のデザイン向上を意図して刊行されたことも明らかになった。
- ②デザイン・ジャーナル誌では720点、万博のカタログでは1723点が掲載されていた。前者では140点、後者は496点と食器の点数が最も多いことが両誌に共通していえるが、雑貨、家具、織物、アクセサリ、照明、住居装飾品、置物などその他の品目の内容にも共通な点がみられる。これらの製品が当時のデザインの主要なテーマであることが推定できた。